

市長のタウンミーティング 経田地区

(敬称略)



開催日時 平成29年10月23日(月) 19:00～21:00

会場 経田公民館

参加人数 36名

開会挨拶 経田地区振興協議会長 高瀬忠次
書記 本田裕大

市政への提案、意見

番号	地区名	項目	内容
1	経田	まちづくり	災害用備蓄品については、備蓄倉庫である大町小学校、上中島小学校、新川学びの森天神山交流館、浄化センターの4ヶ所に集約されている。災害時には迅速な対応が求められることから、不足する備蓄品の早急な配備をお願いするとともに、備蓄品庫となっている4ヶ所だけではなく、経田地区を含めた各13地区へ備蓄を分散していただきたい。
2	経田	教育環境	小中高一貫の学校を県東部に住む子たちが通いやすいところに設けることで魅力の向上に繋がるものかと考えている。
3	経田	教育環境	事故を未然に防ぐための手段として、例えば大きな標識を複数立てるといような対策をとるべきではないか。
4	経田	まちづくり	河川周辺は雑木林になっている。災害時には流木や流水による堤防の決壊が心配であるため、周辺雑木等も含めて、管理の徹底を富山県へお願いしていただきたい。
5	経田	まちづくり	市主催の水防訓練の際、土嚢でせき止めする対応をされているが、このような方法では暴れ川と呼ばれる片貝川は止まらない。地震等の防災訓練はよく実施しているが、水防訓練も定期的実施していただきたい。
6	経田	まちづくり	天神橋から海にかけての右岸及び左岸について、国の事業の一環で大学の教授等からご助言いただきながら、堤防付近での様々なスポーツ利用施設等の醸成を約束していただいたが、現在は堤防と雪捨て場のみ出来て他は何も無い状況である。この状況について説明いただきたい
7	経田	まちづくり	持光寺地内に国鉄の信号所があった。そこで学生を乗せて通勤・通学に役立っていた経緯もあることから、以前より魚津駅の駅長には、JRがあいの風とやま鉄道になる際には、信号所の跡地を利用して、持光寺地内へのホーム設立を訴えていた。引き続き要望としてお願いするものである。
8	経田	まちづくり	人口減少対策だけではなく、魅力あるまちづくりが一番重要ではないかと思っている。魚津市において魅力ある働き口の確保あるいは産業の確保が必要かと思う。具体的な考えを伺いたい。
9	経田	まちづくり	魚津市は、モノの生産を担う働き場が少ないので、生産性のある企業を作るべきであると考えている。企業を誘致するだけではなく、若者等の働き口を探す人の意見を聞きながら、行政自らが起業して採用するというような方法もあるのではないかと。
10	経田	まちづくり	1990年台に富山県で雪国快適まちづくり事業を実施したところであり、積雪に悩む地区には消雪装置の設置をする事業であった。経田の密集地も対象となっていたが、下水道の整備とともに設置するという条件が付き、約25年が経過した。いつできるのか、目処を教えてください。
11	経田	その他	市内13地区でやり方は別々だとは思いますが、区長報酬の考え方については、統一した方針で市当局の方から説明していただきたい。広報の配布部数×単価という考え方があるように、報酬においても尊重されるべきと考えている

その他に7件のご意見あり

平成29年度 市長のタウンミーティング実施報告書

地区名	経田地区	日時	10月23日(月) 19時00分より 21時00分まで		参加者数	36名
会場名	経田公民館	司会	企画政策課 上田 哲也	書記	農林水産課 本田 裕大	
市側の出席者	市長 村椿 晃 企画総務部長 川岸 勇一 企画政策課長 赤坂 光俊 ほか		地区からの 主な参加者	地区振興協議会長、町内会長、地区社会福祉協議会会長、地区選出議員ほか		

1. あいさつ

地区振興協議会長 高瀬忠次

2. 市長談話

市長 村椿 晃

魚津市の現状、「子育て」「教育環境」「まちづくり」について

- 衆議院選挙の投票率について（投票啓発）
- 人口について
 - ・住み良さランキング（東洋経済新報社）について
 - ・魚津市の現状・将来予想
- 子育て支援について
 - ・安心して産み育てる環境の整備
 - ・仕事と家庭の両立等
 - ・経済的負担の軽減
- 教育環境について
 - ・小学校英語教育の推進
 - ・教育用 I C T環境整備
 - ・通学の安全、安心対策
 - ・ふるさと教育
- まちづくりについて
 - ・定住、空家対策
- 災害に強いまちづくりについて
 - ・津波のハザードマップについて
- 健康寿命の延伸について
 - ・魚津市民の健康（がん死亡率等）

3. 意見交換（地区からの振興策等の提言・提案等について）

○地域防災の問題について（まちづくり）

呉羽山断層帯地震による被害想定における避難所避難者数は、富山県の試算で、魚津市は7,498人及び親戚等疎開者は4,037人と試算されている。有事の際に必要な災害用備蓄品については、魚津市全体の現物備蓄として市民全体の約20%の2,307人分の備蓄が計画されており、備蓄品庫である大町小学校、上中島小学校、新川学びの森天神山交流館、浄化センターの4ヶ所に集約されている。

ここ経田地区においては、魚津市全体と比較した人口割合が11.2%であることから、計画上で言うと259人分の備蓄が必要となる。(2,307人×11.2%)万が一の災害時には迅速な対応が求められることから、不足する備蓄品の早急な配備をお願いするとともに、備蓄品庫となっている4ヶ所だけではなく、経田地区を含めた各13地区へ備蓄を分散していただきたい。

（村椿市長）

住む場所の近くに災害備蓄品を置くことが重要であることから、将来的に市内13地区へ配備していきたいと考えていますが、備蓄場所の確保が必要となってきます。経田小学校と協議中とのことであるが、可能であれば、早急な配備を実施していきたいと思います。今年度は、必要人数分の飲料水と非常食の配備に加え、毛布100枚の追加を考えています。毛布の不足分については、調整の上、今後検討していきたいと思います。

○中高一貫校等について（教育環境）

地域の魅力をどうするかという話があったが、一昨年この場において子供の教育について質問させていただいた。再度というわけではないが、以前、中学校の教諭へ経田出身の子供たちの成績について伺う機会があった。また、どの学年においても、経田出身の子が成績上位に入っているということで、校長先生からは経田の子たちは品行方正な子が多いと聞いている。

一方で、富山県全体を見ると、このように成績優秀な子を良い学校に入れてあげたいと感じている親も多いと聞いている。例えば中高一貫の学校というのは、富山県では現在富山の方にだけあり、そこに行くしかないという状況である。朝日町や入善町、魚津市など県東部に住む子たちは当然そこから通学することになるわけであり、不便であるように思う。

そこで、地域の魅力をどうするかという話に対しては、例えば小中高一貫の学校を県東部に住む子たちが通いやすいところに設けることで魅力の向上に繋がるものかと考えている。これに関連して国の方へも協議中である。

（村椿市長）

国へ協議しているという点については、また、改めてお話を聞かせていただきたいが、地域の特色を生かした学校や中高一貫の学校を設けるということも魅力向上に繋がるものと考えています。

○通学路の問題について（教育環境）

先日も、通学中の生徒が車にはねられるという悲しいニュースがあった。私自身、見守り隊をやっているが、経田小学校前の通り（市道経田中町持光寺線？）は、車の往来も多

く、本来であれば法定速度 30km/h で走らないといけないところ、30km/h 以上スピードを出して走っている車をよく見かける。このような中、小学校前通りでも、以前、当て逃げにより通学中の子供が怪我をするという事件も発生している。

もちろん、車を運転される方は分かっていると思うが、事故を未然に防ぐための手段として、例えば大きな標識を複数立てるといような対策をとるべきではないかと考えている。

(村椿市長)

まず、運転手が認識することが重要であります。対策としては、既に様々な場所で実施しているように、運転手が認識できる環境を整備することが必要であり、魚津市においても、子供たちの安全の確保に向けていろいろな手段を用いて対応したいと考えています。

○片貝川の問題について（まちづくり）

①見たところ、管理不足がどうかは分からないが、河川周辺は雑木林になっている。災害時には流木や流水による堤防の決壊が心配であるため、周辺雑木等も含めて、管理の徹底を富山県へお願いしていただきたい。

②数年に一回程度実施している市主催の水防訓練の際、テレビでも見たが、土嚢でせき止めする対応をされているが、このような方法では暴れ川と呼ばれる片貝川は止まらない。地震等の防災訓練はよく実施しているが、このような水防訓練も定期的に行なうべきだと思われる。

③天神橋から海にかけての右岸及び左岸について、国の事業の一環で大学の教授等からご助言いただきながら、堤防付近での様々なスポーツ利用施設等の醸成を約束していただいたが、現在は堤防と雪捨て場のみ出来て他は何も無い状況である。この状況について説明いただきたい

(村椿市長)

① 河川の適正な管理については富山県とよく協議しているところであり、引き続き訴えて行きます。

② 様々な場合を想定した訓練となるよう、専門家等の意見も聴取しながら実施していきたいと考えています。

③ 片貝川河川環境整備事業のことかと思われませんが、経緯については、申し訳ないが存じ上げません。どのような計画だったかについて、再度確認させていただきたいと思えます。

○持光寺地区での駅ホーム設立の問題について（まちづくり）

持光寺地内に国鉄の信号所があった。そこで学生を乗せて通勤・通学に役立っていた経緯もあることから、以前より魚津駅の駅長にはJRがあいの風とやま鉄道になる際には、信号所の跡地を利用して、地域の活性化とともに持光寺地内へのホーム設立を訴えていた。駅長は現在異動されてしまい、ホーム設立の話はうやむやになってしまったが、引き続き、要望としてお願いするものである。

(村椿市長)

駅ホーム設立はとてもハードルが高いと思われれます。誘致する際の条件として、例えば、宅地開発が増えたり定住人口が増えたりと、商業的利用価値が一定以上を満たすと

鉄道会社が判断しないことには難しいと思います。跡地がどのような場所だったか、どの程度利用されていたか、再度利用される可能性等考慮した上で検討していきたいと思います。

○働く環境の確保の問題について①（まちづくり）

人口減少対策だけではなく、魅力あるまちづくりが一番重要ではないかと思っている。私自身金沢からの移り身であり、3人の子供がいるが3人とも富山の方へ出て行ってしまっている。様々なことを考える必要があるが、魚津市において魅力ある働き口の確保あるいは産業の確保が必要かと思う。

そこで、いただいた資料にもいろいろ記載してあるが、行政的な立場として具体的な考えを伺いたい。

(村椿市長)

現時点ではふたつあります。ひとつ目は、企業誘致対策であります。昨年度から、たびたび、東京の方で開催される企業誘致のセミナー等へ出席し、大企業の方々とお話をさせていただいています。土地が少ない魚津という中で誘致する場合は、大小含めて土地柄にあった企業の誘致方法の検討や用地の調査を考えています。

ふたつ目は、平地の少ない魚津市の中でも誘致できる産業の模索であります。例えば、IT産業を対象に魚津という土地に興味を示していただけるところを検討しています。IT産業においては、労働者の平均年齢は30歳前後が多いことから若者の雇用対策にもなります。実際に、都市圏で採用して地方に派遣する形式をとっている企業とコンタクトをとりながら誘致を働きかけている状況であります。

このふたつの側面から、働く環境の確保に向けて取り組んでいきたいと考えています。

○働く環境の確保の問題について②（まちづくり）について

魚津市は介護施設が多く、社会福祉のニーズが大きい現代社会においては確かに働き場の確保された場所であるかと思うが、モノの生産を担う働き場ではないので、生産性のある企業を作るべきであると考えます。それによって税収の問題も少なからず解消されるかと思えますし、逆に言えば、企業を誘致するだけではなく、若者等の働き口を探す人の意見を聞きながら、行政自らが起業して採用するというような方法もあるのではないか。

(村椿市長)

全国的に見れば、行政が起業しているケースもあります。ただし、製造業はあまり無く、ほとんどがサービス業であります。例えば、農家レストランとかがあります。しかし、できないわけではないので、おっしゃるような方法も一つとして、様々な可能性を検討していきます。

○密集地での下水道の問題について（まちづくり）

1990年台に富山県で雪国快適まちづくり事業を実施したところであり、積雪に悩む地区には消雪装置の設置をする事業であった。経田の密集地も対象となっていたが、下水道の整備とともに設置するという条件が付き、約25年が経過した。いつできるのか、目処を教えてください。

(村椿市長)

待たせてしまっていることは申し訳ないと思っています。近年は、実施予定地区での

調査が必須であることから、昨年度より、地籍調査を始めたところであり、調査結果に基づいて、速やかに国や県へ予算化できるよう働きかけていきたいと思っております。

○まちづくり交付金の問題について（まちづくり）

市内 13 地区でやり方は別々だとは思いますが、区長報酬の考え方については、統一した方針で市当局の方から説明していただきたい。広報の配布部数×単価という考え方があるように、報酬においても尊重されるべきと考えている。

(川岸企画総務部長)

地域によって実態はバラバラとなっているのは事実であります。旧区長制度で区長へ直接いろいろお願いしている経緯はありましたが、現在は地域振興会を通して各区長へ広報の配布をお願いしており、それ以外の様々な配布資料を市の方で先に仕分けすることとした分、区長が受け持つ作業負担はかなり改善されたと思っています。しかし、その分の報酬は確保した上で、地域の実情に応じてお任せしてきたこともあることから混乱を招くご指摘になったかと考えています。必要に応じて説明はしていきたいが、ある程度地域の自由裁量に任せたいという仕組みに変えてきたということでもあります。

○募金活動の問題について（まちづくり）

様々な募金活動が回ってくるが、半ば強制の如く徴収されるため、個人の裁量を尊重して、例えば、募金箱は募金箱で回すという体制に改めていただきたい。最高裁の判決で、類似事例は違法と解釈されている。

(川岸企画総務部長)

全くご指摘の通りであります。ただ、強制しているのではなく、あくまでお願いするものにしていきたいと思っています。

○定住促進の問題について（まちづくり）

経田の魅力発信や定住促進、交流人口の増加を考える場合にひとつの手法として例えば民泊という方法がある。外部から受け入れする場合、宿泊が伴うことになるが、経田にはその機能を持つ施設は無い。基本的には主体性のある所への補助なり支援になるかと思うが、経田地区でも経田の良いところを見てもらうあるいは発信することを考えたときに、民泊のように地域の魅力を発信する方法として手軽にできる方法はないか？

(村椿市長)

民泊については、現在、国の方で様々な施策とともに推進しているところでもあります。意欲ある地域については、応援したいと考えています。交流施設が無いという点についてもハード面で支援している制度もあることから主体的に推進したい地域については応援したいと考えています。

○福祉センターの問題について①（まちづくり）

広報誌へも記載があったように、公共施設再編の方針に伴い、経田の福祉センターの用途をはっきりしなければ取り壊しする話が挙がっています。使いたいか使いたくないかで言えば使いたいと思っている。この場合に、改修等に要する経費の助成はあるか？

(村椿市長)

市の公共施設の方針が出ている以上、白紙に戻すということはなかなか難しいところ

です。単に壊したいというわけではありません。地域の方で施設の利用を継続したいという話であれば、地区内の様々な世代が交流できる場であると同時に地区外の方（人口増加に繋がるような）が交流できる場を構築するということであるならば、改修に関して検討したいと考えています。

○福祉センターの問題について②（まちづくり）

高齢福祉に一躍かっていた福祉センターであり、公共施設の老朽化に伴う廃止については、建替、または遊休施設の再利用が基本である。経田でも年間約5,000人の利用がある中、また、市の健康センターでの健康プラザの構想の頓挫も見え隠れする中で、福祉センターの廃止は、市の判断として高齢者の居場所をなくすように思われるがどう考えているか。

（村椿市長）

高齢者の居場所は必要だと思っていますが、現在の福祉センターのままでやっっていくかどうかもある必要があり、また、大規模施設の一ヶ所でやるべきかどうかもある必要があり、どちらが良いかということは今この場では申し上げられませんが、いずれにしても、高齢者の生きがいや交流、健康づくりとなるような場の提供について真剣に考えていきたいと思っています。

○新設の8号バイパス近隣の問題について

8号線バイパスの側道に一時停止の標識をつけてほしい。

（川岸企画総務部長）

現地を見て確認します。

○旧国道（現県道）の問題について

国道8号バイパスの開通に伴い、旧国道は県道となった。経田地内では、江口に交差点が立地しているが、江口地区の方に話を聞いたところ、立体交差点の計画は無いと言っていた。二車線化の計画も進んでいる中で難しいかもしれないが、地元のことを考えると、当該地は立体交差点にすべきと考えている。

（村椿市長）

提案を頭にいれて勉強してみます。

○福祉センターの問題について③（まちづくり）

先ほどから話が挙がっているとおり、福祉センターの活用を何とか考えていきたいと思っている。市老連も福祉センターを通して、論語やことわざ等の様々な教室で利用させてもらっている。これらの他にも、趣味、文化等の教養を交えながら活用していきたいので福祉センターの継続についてお願いしたい。

（村椿市長）

現時点では廃止せざるを得ませんが、いろいろな意見を聞きながら検討していきたいと思っています。

○おわりに

- ・うおづのうまい水モンドセレクション最高金賞受賞について